



Title	男女共同利用からみた授乳室のあり方についての基礎的研究：札幌市内における商業施設の実態調査を通じて
Author(s)	田才, 知未; 森, 傑
Description	2010年日本建築学会大会（北陸）、2010年9月9日～9月11日、富山大学（五福キャンパス）、富山市
Citation	学術講演梗概集. E-1, 建築計画I, 各種建物・地域施設, 設計方法, 構法計画, 人間工学, 計画基礎, 2010, 57-60
Issue Date	2010-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50366
Rights	本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである
Type	journal article
File Information	AIJ, 2010. 57-60. pdf



男女共同利用からみた授乳室のあり方についての基礎的研究
—札幌市内における商業施設の実態調査を通じて—

正会員 ○ 田才 知未*
同 森 傑**

男女共同参画 育児 授乳室
商業施設 ユニバーサルデザイン

1. 背景と目的

今日、社会の様々な場面における男女共同参画の認識は広く一般に浸透しつつある。この議論は、これまで特に女性の社会的地位の向上が中心であったが、近年では、専業主夫という考え方の普及や男性の育児休暇の取得推進など、育児環境においても男女共同参画という視点による生活社会が目指されている。しかし、家庭における男女共同参画が進む中で、育児環境の整備が不十分であることによって、男性の育児参加に種々の問題が生じていると考えられる。このような育児環境の一つとして、乳幼児をつれた人々のより快適な外出を実現するために充実した整備が求められているものに授乳室^{注1)}が挙げられる。

本研究では、授乳室の利用実態を把握し、男女共同利用における問題について分析することで、授乳室の今後のあり方を探ることを目的とする。

2. 調査概要

2-1. 調査方法

札幌市内の商業施設のうち、大店立地法^{注2)}に基づき届け出がされている大型店全 210 施設に対して、授乳室があると確認を取れた 42 施設、43 カ所を調査対象とする。平面の実測と写真撮影による現状調査に加え、1 施設につき 3 組の利用者に対し年齢などの基礎情報のほか授乳室に対する要望や問題点など利用実態を明らかにする目的でヒアリング調査を行なった。なお、ヒアリング調査においては、施設によって利用者数にばらつきがあるため、最も多く利用するであろう 12 時から 17 時の間で 3 組にヒアリング出来なかった場合は、その時点で調査を終了することとした。

2-2. 調査結果

調査の結果、117 組 (女性 114 人、男性 21 人) の利用者から回答が得られた。その結果の概要を図 1 に示す。出かける際に授乳室の有無を確認、または授乳室のある所に行く人が 75%、行き先に授乳室がない場合にルートを変更したりと、行動を規制される人が 85%いた。また、授乳室の利用目的では、オムツ換えが 49%で授乳・調乳が 33%と大半を占める結果であった。親の性別においては、男性は 18%しか利用しておらず、ほとんどの利用者は女性であるにも関わらず、女性は男性が利用する必要

性を感じていた。利用していた男性でも、33%が利用に抵抗を持っていた。

3. 分析

3-1. 分析視点の抽出

授乳室の男女共同利用に向けた建築計画的対応を探るため、授乳室への要望や不満として得られた回答を KJ 法を応用して 13 項目にまとめ、建築計画的に対応できるかという視点において分類を行なった。さらに、建築計画的に分類された項目を施工後対応可能であるかにより、整理した (表 1)。対応不可能と分類され、男女共同利用の視点から重要であると判断した「配置」・「授乳スペースの形態」・「入口」の 3 項目に着目し、分析を行なった。分析の視点となった意見を表 2 にまとめた。

(1) 入口

a) 授乳室

授乳室の入口に対する意見として、男女共に混雑具合

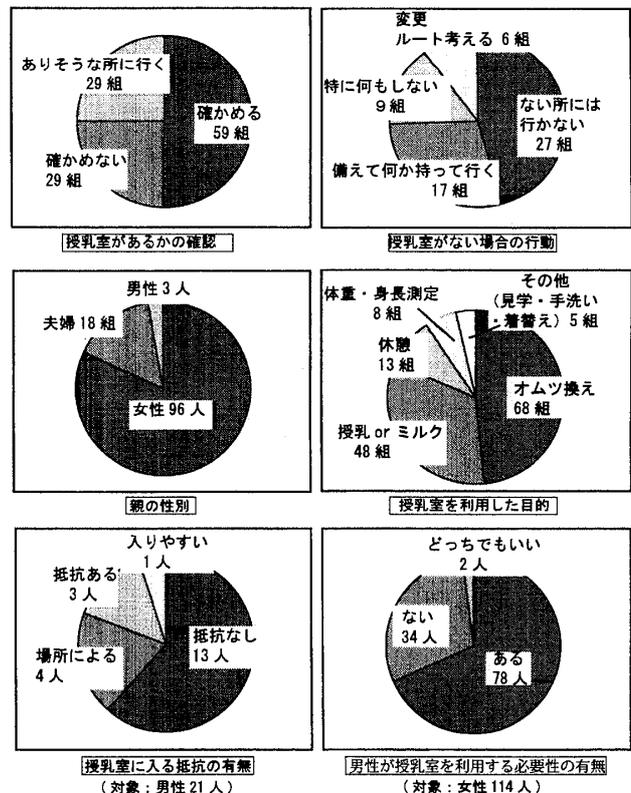


図 1. ヒアリング結果の概要

表 1. ヒアリング結果の分類

カテゴリー		具体的な内容	
建築計画的	施工後対応可能	家具	「折りたたみ式のベッドがいい」「イスよりソファの方が授乳しやすい」など
		サイン	「授乳スペースに入ってるか分かりやすく標示があるといい」「授乳室までの標識が分かりやすいといい」など
	施工後対応不可能	スペース	「子供レストランなど親子でご飯が食べられると便利」「全体的に広いといい」など
		全体配置	「子供の遊び場の近くがいい」「人通りが多い場所だと安心」など
		内装(雰囲気)	「子供が喜ぶようなデザインがいい」「清潔感があるところがいい」など
		建築設備	「冷房が効きすぎないでほしい」「臭いしないでほしい」など
		配置	「授乳スペースとオムツ換えスペースが分かれてほしい」「授乳スペースまでベビーカートを入れるといい」など
		授乳スペースの形態	「男性も入れるように授乳スペースは個室がいい」「個室と大部屋両方あるといい」など
		入口	「入口がオープンになっていて方がいい」「授乳スペースの入口がカーテンだと不安だから扉がいい」など
		非建築計画的	具体例
備品	「ビニール袋あるといい」「オムツ交換台にタオル敷いてあるといい」など		
人的	「人の気配がほしい」「店員の近くだと安心」など		
感想	「あると買い物しやすくていい」「病気の人は来ないでほしい」など		

表 2. ヒアリング結果の具体例

配置	・入り口の前にイスがあって待ってる人いると嫌 1人
	・イオン元町は授乳スペースの上が見えそうで、しっかりにして欲しい 1人
	・奥に個室の授乳スペースがあるといい 1人
授乳室の入口	・お父さんが待てるスペースがあって、1歩挟んで授乳スペースがある 3人
	・お父さん待てるスペースと授乳スペース離して欲しい 1人
	・授乳スペース丸見えは嫌だから、奥行ってから曲がる作りがいい 2人
授乳スペースの形態	・オムツ換えスペースと授乳スペースがちゃんとわかれてほしい 6人
	・男性も使いやすいようにオムツ台と授乳スペースが分かれているといい 1人
	・オープンな所は嫌 5人
授乳スペース	・クローズ過ぎる所は嫌 4人
	・入り口がオープンになって方がいい 3人
	・入り口がオープンじゃない方がいい 1人
授乳スペース	・入り口にドアがある方がいい 2人
	・巾の幅が分かる方が安心 4人
	・カーテンだと閉塞感がある 1人
授乳スペース	・授乳スペースがカーテンだけで仕切られてると嫌 5人
	・授乳スペースがカーテンでいるかいないか分からない所は嫌 4人
	・授乳スペースにカーテンがちゃんとある方がいい 2人
授乳スペース	・授乳スペースがカーテンだと不安だから扉がいい 1人
	・男性も入れるように授乳スペースはドアがいい 1人
	・男性も入れるように授乳スペース個室がいい 2人
授乳スペース	・個室なら他の男性も気にならない 1人
	・男性がいなければ大部屋の方がいい 1人
	・授乳スペースが個室がいい 3人
授乳スペース	・授乳スペースがいっぱいあるといい 8人
	・授乳スペースが大部屋だけのところは嫌 4人
	・授乳スペースが個室がいい 3人

男性

の確認や安全面から内部の様子が認識出来るよう授乳室の入口は何もないことを希望する意見や、女性としては外部から見られることを懸念し扉があることを希望する意見などがあった。

b) 授乳スペース

授乳スペースの入口に対する意見として、授乳スペースが外部から見えないためにカーテンや扉があることを希望する意見や、扉であれば男性が利用できるといった意見、入口が閉まっている場合、中の様子が分からない不安感があるといった意見などがあった。

(2) 配置

授乳室内のオムツ換えスペース、休憩スペース、授乳スペースの配置に対する意見として、外部からでも混雑具合などの中の様子が伺えた方が良くという意見があった。また男性からの意見として、男性も利用可能なスペースと女性専用スペースとの距離感を気にする意見もあった。

(3) 授乳スペースの形態

授乳スペースの形態に対する意見として、男性も入れるように個室を望む意見や、男性がいなければ大部屋がいいなど、授乳スペースの形態によって男性が授乳スペースを利用できる意見があった。

以上のような利用者の意見から、「入口」は「配置」「授乳スペースの形態」と複合して授乳室の評価に影響しているため、「配置と入口」・「部屋形態と入口」の2視点にまとめてさらに視点の抽出を行なった。

(I) 配置と入口

男女両方の意見として、混雑具合の確認や安全面から、授乳室の入口から授乳室内の様子が確認しやすい配置であること及び、授乳スペースの入口からは女性が胸を出すため、男性が利用するオムツ換えスペースや待ち合いスペースが見えない配置が望まれている。したがって、授乳室に入る際の室内の見え方や、女性専用である授乳スペースの入口と授乳室の入口、男性も使用するオムツ換えスペースや待ち合いスペースの配置を考慮する必要がある。

(II) 部屋形態と入口

女性の意見として、男性も授乳スペースに入る必要性及び、授乳スペースの形態や入口の仕様の違いによって授乳室にいる男性の存在に対する意識が変わることが指摘された。したがって、授乳室の男女共同利用において授乳スペースの形態を考慮する必要がある。

3-2. 平面図による現状分析

前説で得られた視点から、授乳室・授乳スペースの現状を平面図を用いて分析する。なお、待ち合いスペースやオムツ換えスペースなど授乳スペース以外の空間がなく、1つの個室により構成され、他人と共同で利用しないタイプ、授乳室自体に男性が立ち入ることを禁止するタイプ、授乳スペースが分離されておらずオムツ換えスペースのみで構成されているタイプに当てはまる9カ所に関しては、本研究の前提である男女共同利用という視点から除外している。

(I) 配置と入口

授乳室と授乳スペースそれぞれの入口、オムツ換えスペース、待ち合いスペースの配置に着目して34カ所の授乳室について分類を行なった。入口の仕様として、現状では「扉」「カーテン」「何もしない」の3つに分けることができ、授乳室の入口に扉かカーテンがある場合は授乳室内は見えないものとした。授乳スペースの入口においては、カーテンや扉を開けた状態で視界に入るかによ

て分類を行なった。この分類の結果、34カ所の授乳室を14タイプに分類することができた(図2)。

(II) 部屋形態と入口

授乳スペースの部屋の形態と入口に着目して、授乳スペースの分類を行なった。以下3つのタイプに分類することができた(図3)。

個室型：個室のみで構成され、1人で使用できるため他人

に見られる心配が少ない。また、他人を気にしてミルクを飲まない赤ちゃんの場合にも有効である。また、男性の立ち入り禁止を示すサインの設置にも関わらず、男性の利用が見られるタイプである。しかし、利用できる人数が限られるため、利用の多い場所では待たなければならない問題が生じる。急を要する授乳において、待つことは避けたい。

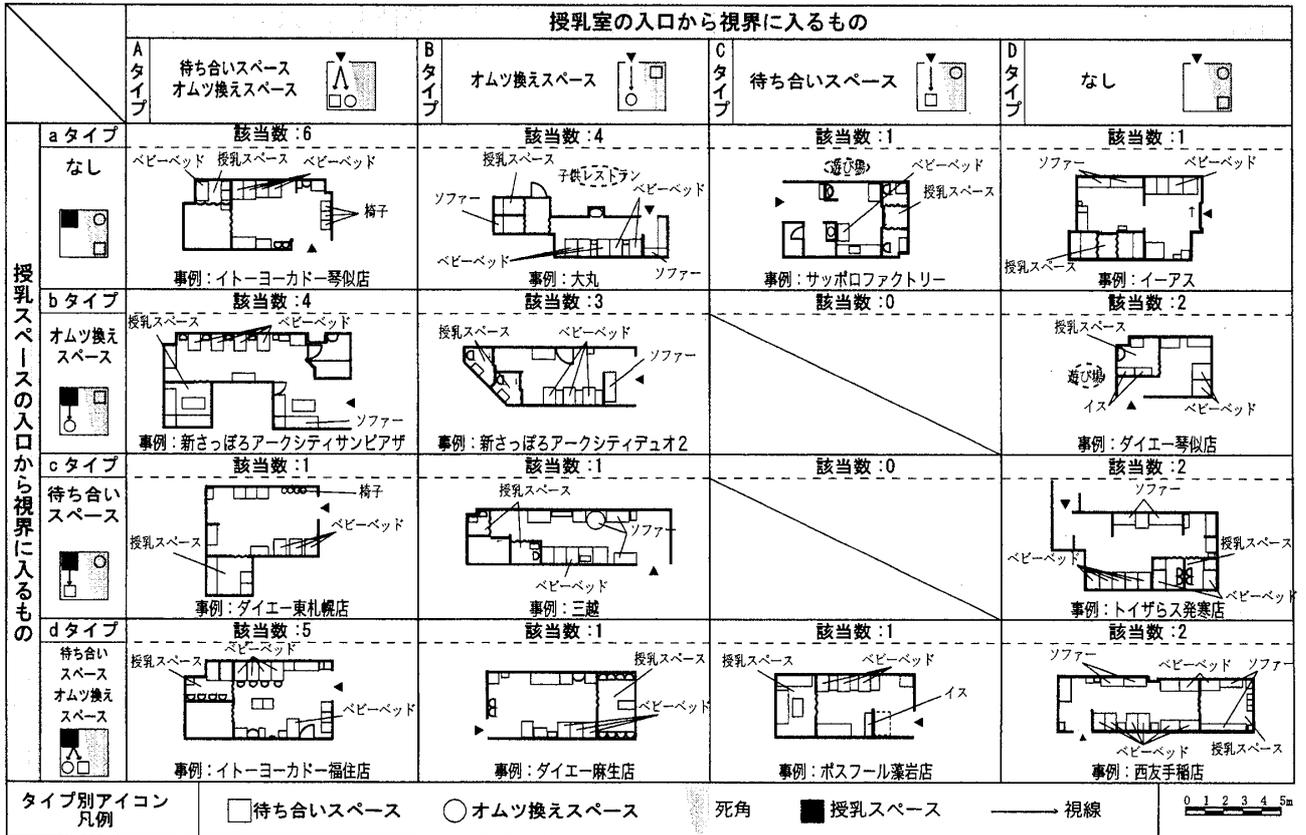


図2. 配置と入口による平面図の分類

タイプ	個室型		大部屋型		混合型	
バッファゾーン	あり	なし	あり	なし	あり	なし
該当数	9施設	9施設	11施設	1施設	2施設	2施設
モデル						
具体例						
施設名	新さっぽろアークシティデュオ2	サッポロファクトリー	ダイエー東札幌店	Ario(イトーヨーカドー)	Ario(ベビザラス)	イオン東苗穂ショッピングセンター
凡例	個室	大部屋	バッファゾーン	出入口		

図3. 授乳スペースの形態

また、入口にバッファゾーン^{注4)}を設けると、授乳スペースの外にいる人から見られることが確実になくなり、より快適に授乳を行なうことができる。

大部屋型：大部屋のみで構成され、他人と共同で利用する大部屋型は、女性同士であっても他人の視線を気にする人にとっては利用しにくいタイプである。男性も入ることの出来る大部屋型の事例はみられない。また、先に他の人が授乳をしている可能性が考えられるため、入る際に気を付けなければならないという問題も生じる。しかし、同時に多数の人が利用できるため待たなくてよいという利点があり、利用の多い場所では有効である。

このタイプにおいても、入口にバッファゾーンを設けると、授乳スペースの外から見えなくなる上に、授乳スペース内に利用者がいた場合、入ることへの気遣いを軽減する役割を果たす。

混合型：個室・大部屋の両方で構成され、必要に合わせて選択できる。そのため、個室型と大部屋型両方における利点を持ち合わせている。しかし、面積を必要とすることや、個室を使用する場合は大部屋の前を通過して個室に行かなければならないため、アクセスしづらい問題が生じる。

入口にバッファゾーンを設けると、個室と大部屋のアクセスのしづらさを改善できる。

4. 考察とまとめ

本研究では、札幌市内の授乳室の利用実態をヒアリング調査し、現在の計画状況を平面図により分類することで、男女共同利用における建築計画上の課題を抽出した。

授乳スペースや授乳室の入口からの見え方や、3つの主要スペースの配置の仕方、また、入口の仕様や授乳スペースの形態によって、授乳室がより男女にとって使用しやすいつくりとなると考えられた。

具体的に以下の6点に、男女共同利用からみた今後の授乳室計画における建築計画上の考慮点があると考えた。

- ①授乳室の入口から授乳スペースの入口が見通せる位置に配置しないようにする。
- ②授乳室の入口からオムツ換えスペース及び、待ち合いスペースが見通せ、且つ授乳スペースの入口から両スペースが見えないよう配置する。
- ③授乳スペースの形態としては入口にバッファゾーンを設置する。
- ④男性も気軽に使用できるように授乳スペースに少なくとも一つ個室を確保する。
- ⑤授乳スペースを個室と大部屋の複数用意する場合は、それぞれの入口への動線がバッファゾーン内で交錯しないようにする。
- ⑥授乳スペースの入口はカーテンではなくしっかりと閉

* 北海道大学大学院工学院 修士課程

** 北海道大学大学院工学院 教授・博（工）

鎖できる扉とする。

以上の6つの視点からみると、現状として図4の事例が比較的理想的に近い計画事例である。この事例は唯一の図2におけるA,aタイプかつ図3における混合型（バッファゾーンあり）である。授乳室への入口は何もなく、目の前に待ち合いスペース、右手にはオムツ交換台スペースが見渡せることにより、中の様子が瞬時に分かり入りやすさをつくり出している。また、授乳スペースにおいては、入口から一番奥に設置され、2重カーテンのため出入りの際に直接中の様子が分からないつくりとなっている。そのため、女性としても見られる心配がなく、男性としても授乳スペースと距離感を感じさせるため使いやすさがあるつくりである。さらに、授乳スペースから対角線上に遊び場があり、父親としても遊びやすいといえる。以上のような理由から、利用者から利用しやすい例として取り上げられていると考えられる。本事例をみると、オムツ交換台スペース、待ち合いスペース、授乳室・授乳スペースの入口がどのような配置となっているかにより、利用しやすい授乳室が実現できると考えられる。

さらに、授乳スペースの入口が扉であり、男性も入れるように考慮されていることが男女共同利用において理想的であると考える。

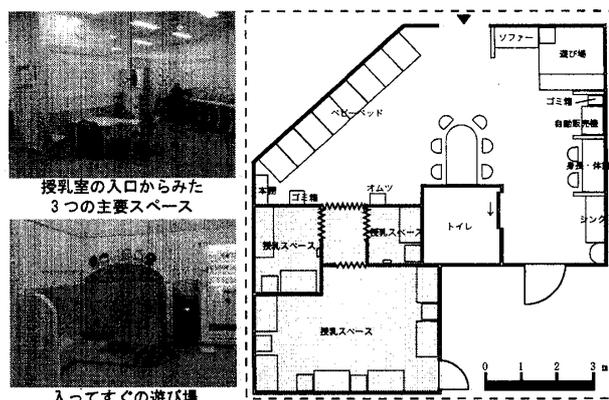


図4. 事例平面図と内部写真

5. 今後の課題

ヒアリング調査により、授乳室の現状として授乳スペースに男性が入ってはいけないという認識があり、そのことが授乳室の男女共同利用における根本的な課題として存在している。育児環境において男女の平等化が進む中、今後の授乳室のあり方を考える上で、男性も授乳を行うことを前提に意識の改革が必要となる。

注釈

- 1) オムツ交換や調乳を行なう、男女が共同で使える育児環境施設。授乳室の中に、女性専用と認識されている授乳をする為の空間である授乳スペースが設置されている。
- 2) 大規模小売店舗立地法
- 3) オムツ換えスペースをオムツ交換台、待ち合いスペースとイスとして分類した。
- 4) 授乳スペースの入口が2重の為にできる空間

*Graduate Student, Graduate school of Eng., Hokkaido Univ

** Prof., Faculty., Hokkaido Univ., Ph.D.in Eng.